

## 菅内閣を採点する

## 国民のために働く内閣

政治アナリスト  
元杏林大学教授

豊島典雄

## 戦わずして勝つ

菅義偉新総理が誕生した。

菅総理は「百戦錬磨、自民党で最も政治的技術を持った方」（安倍前首相）である。二階幹事長を味方にし、石破茂嫌いの細田、麻生派を引き込み、自民党総裁選を制した。

幕が上がる前に芝居は終わっていた。見事な勝ち戦である。「好機というものは、すぐ捕まえないと、逃げて去ってしまうものである」（マキアヴェツリ）。

9月14日の自民党総裁選（535票）は、菅義偉377票（議員票288票、地方票89票）で、岸田文雄89票（議員票79票、地方票10票）、石破茂68票（議員票26票、地方票42票）に圧勝した。

「私はよく人間は運だというんですよ。ことに政治家なんていうのは、力量と運は五分五分というけど、俺は運の方が7分くらいだ」と。総理になった

といったって、運がよかったから早くなったんで」「ナニ、ただの運じゃ駄目なんだ。悪運が強くないと政治家は駄目なんだ」（岸信介）。

石破氏の敗因は、離党、派閥移籍等の変節、限度を超えた安倍批判で、国会議員に警戒されたこと。議員票26票は悲惨である。派閥外の議員の支持はたったの7票。威信と影響力は衰える。棘道だろう。

「党派性、闘争、興奮・憤怒と偏見」は政治家の本領」（マックスウエーバー）である。

岸田氏の敗因は安倍前総理への依存と迫力不足である。

政権禪譲については、古くから吉田茂と鳩山一郎間、岸信介と大野伴睦、河野一郎間、佐藤栄作と福田赳夫間、福田赳夫と大平正芳間の密約があるが守られたことはない。

やはり、戦下手の「お公家集団」である。石破潰しを策す主流派から票

が回り、首の皮一枚残ったようだが、「リーダーの素質とは、所詮もって生まれた天性のものによるのではないだろうか。……所詮は、学べる性質のものではないのではないだろうか」（マキアヴェツリ）。

岸田氏の前途も多難である。

## 安倍政権の評価は

安倍政治は辞任表明とともに、再評価され、支持率は20ポイントも急上昇した。総理の仕事は「第1はね、いままでもなく安全保障だよ、それがなげりや経済の発展もあるいは文教の振興もない」（岸信介）。

安倍政治の最大の功績は政治の安定、日米同盟の強化であろう。

内に国政選挙6戦6勝で政治の安定をもたらしした。また、アベノミクスで経済活性化に貢献し、さらに、特定秘密保護法、国家安全保障局創設、安保関連法成立で安全保障体制の強化に資した。外政では米国大統領との親密な

関係を築き国際的地位を向上させた。TPP（環太平洋パートナーシップ）、EUとの経済連携協定も業績である。

菅外交は安倍外交の継続であるが、不安は米国大統領との関係である。安倍前総理は、トランプ大統領とは直接会談14回を含め、50回会談している。安全保障からコロナ対策まで協力関係を築いた。

高橋是清、宮沢喜一、麻生太郎は退陣後に、閣僚として活躍している。安倍前総理の各国首脳との信頼関係は貴重である。

安倍前総理には、1閣僚として、外務大臣として貢献する道はあるのではないかと健康が回復することが前提だが、球拾いの可能性がある。

## 小泉型政治？

菅総理には叩き上げの胆力はある。しかし、佐藤栄作のように自前の人材豊富な派閥に支えられているわけではない。外務大臣等の国際政治の経験は

ない。政権の基盤は弱い。実績をあげ、国民の信を確保する姿勢である。

菅人事を批評してみる。

自民党役員人事は二階幹事長、下村博文政務調査会長（細田派）、佐藤勉総務会長（麻生派）、山口泰明選対委員長（竹下派）、森山国会対策委員長（石原派）の布陣である。総裁選で支援してくれた派閥に配慮している。

内閣は「国民のために働く内閣」（菅首相）であり、実務型である。官房長官に加藤勝信前厚労相を起用した。手堅い。しかし、国民へのスポークスマンに向くか？

河野太郎行政改革・規制改革担当相、武田良太総務大臣、平井卓也デジタル担当相が突破力を期待されている。

外務、財務、経済財政担当相等は留任した。

政権はまず、コロナ対策に全力投球する。

9月14日の新総裁の記者会見等を見ると他には、

### 1 デジタル庁の創設

「コロナ禍で日本のデジタル関係が機能しなかったということが1つの大きな課題として浮き彫りになった。各省庁が（権限）を持っている以上、法

改正しなければ課題は解決できない。

その象徴としてデジタル庁をつくる。法改正に向けて早速準備を進める。デジタル庁は（改革の）1つの象徴になる。国民の期待は高い。

### 2 携帯電話料金の引き下げ

菅首相は官房長官時代の平成30年に「今より4割程度下げる余地がある」と指摘し強く値下げを求めてきたが、実際には高止まりしている。

武田良太総務大臣は18日の菅首相との会談後に「100%やる」と記者団に断言した。「健全な市場競争原理を導入して70%から下げている国もドイツやフランスがあるわけだから、やればできる」とも語った。

携帯電話料金の引き下げは国民の最大の関心事だ。

### 3 不妊治療の支援拡大

### 4 最低賃金の引き上げ

### 5 地方銀行等の再編成

菅総理は毎朝、ブレイン達と懇談している。彼らを利用して政権の政策を発信する手法である。

思想は新自由主義である。強引に郵政民営化を断行した小泉純一郎政権に近い。小泉政権を支えた竹中平蔵氏の

存在に注目である。

携帯電話料金の引き下げは、「改革のセンターピン。ボーリングの真ん中のピンを倒せば周りに影響する」（竹中氏）。

また、産業構造の転換に挑む。地方銀行の統合を進め、税制を使い中小企業の再編成を促し、産業の競争力を強化する。国民生活に大きな影響がある。

### 24時間闘う男

菅総理の朝は早い。7時には総理官邸にいます。朝食を兼ねて竹中平蔵、村井純氏、エコノミスト、不妊治療の権威、経営者等と懇談している。休日も仕事をします。

閣僚を官邸に呼びつけて指示し、督促する。霞が関、永田町も緊張する。官僚も政府の方針に従わない者は異動させる。実績を求められる。

菅総理は団塊の世代の71歳であるが、24時間闘う男である。西郷南洲遺訓に「下民その勤労を気の毒に思うようならでは政令は行われ難し」とあるが、走り続ける菅総理の健康が心配になる。

### 衆院解散は

戦後日本の長期政権の後は意外と短命政権が続いている。佐藤栄作 ↓

田中角栄、中曽根康弘 ↓ 竹下登、小泉純一郎 ↓ 第1次安倍内閣である。

マスコミ各社の菅内閣支持率は6割から7割と高い。スタート良しである。磐石にするには国民の信頼を確保することである。国民の審判を仰ぐことである。

チャンスに前髪があっても後髪はない。衆院総選挙で勝てば米国の新大統領との交渉にも有利である。「第2次安倍政権が外交で成功したのは国政選挙で連勝し、政権基盤を固めていたからこそだ。」（9月17日の産経新聞）。

麻生太郎副総理等からはしきりに衆院の早期解散を促す発言が相次いだ。コロナ禍にあるからと反対する声があるが、「アメリカでは大統領選挙を実施している」（竹下巨竹派下会長）。

内閣支持率は高いが、コロナ対策の推進、菅政治の実績を作る必要があるとの判断から臨時国会召集は10月下旬である。菅総理は実績を挙げてから信を問いたいようだ。

しかし、高支持率がいつまで続くか？麻生太郎内閣時のような判断ミスにならないか？政界は一寸先は闇である。